第一章　オヤケアカハチ・ホンカワラの乱について

Ⅰ　オヤケアカハチ・ホンカワラの乱について　*26*
Ⅱ　論功行賞について　*99*
Ⅲ　頭について　*180*
Ⅳ　大阿母について　*203*

オヤケアカハチとクイツバの慰霊碑（石垣市大浜、崎原公園内）

Ⅰ　オヤケアカハチ・ホンカワラの乱について

首謀者のオヤケアカハチ・ホンカワラは、一般的にオヤケ赤蜂と呼び、遠弥計赤蜂、また於屋計赤蜂と当て字している。生誕地の波照間島では、オヤケアカハチと呼び、また移住した大浜ではホウマ・アカハチ（大浜・赤蜂）、俗称ホーマアカブザとも呼ばれている。

近世八重山蔵元時代の旧記には次のように記載されている。

「大浜村にをやけ赤蜂ほんかわらとて二人居けるか」→『八重山嶋由来記』（一七〇五年）、「賊首堀川原赤蜂」→蔡鐸本『中山世譜』（一七〇六年）、「大浜村おやけ（あ）かはつ本かはらと云ふ両人の賊驕」→『女官御双紙』（一七〇六年）、「大浜村ニヲヤケ赤蜂ホンカワラトテ二人居ケルガ」→『琉球国由来記』（一七一三年）、「八重山酋長有堀川原赤蜂者」→蔡温本『中山世譜』（一七二五年）、「八重山島有逆心悪人起謀叛（略）保里川原赤蜂」→『銭姓家譜正統』、「賊首堀川原赤蜂」→『長栄姓大宗信保家譜』（一七三三年）、「大浜邑赤蜂二人之賊党」→『山陽姓大宗長光家譜』、「大浜赤蜂兄弟」→『忠導氏正統系図家譜』（一七五七年）、「八重山島大浜赤蜂兄弟」→『河充氏系図家譜正統』、「八重山島大濱赤蜂兄弟」→『土原氏系図家譜正統』、「大浜村赤蜂堀川原与申弐人」→『八重山島年来記』、「大浜村おやけ赤はつふんかわら両人」→『八重山嶋旧記』、「大浜邑の遠弥計赤蜂保武川」→『球陽』（一七四三～一八七六年）、「当島大濱赤蜂堀川原と申者弐人」→『口上覚』（一八〇九年）。

オヤケアカハチ（遠弥計赤蜂＝於屋計赤蜂）・ホンカワラ（堀川原＝保武川＝保里川原）を『球陽』では一人説になり、それ以外のほとんどの文献には別人と記載され、二人説では親族、兄弟、親子などと考えられている。なお、本稿

では便宜上「オヤケアカハチ・ホンカワラ」と表記を統一することにする。

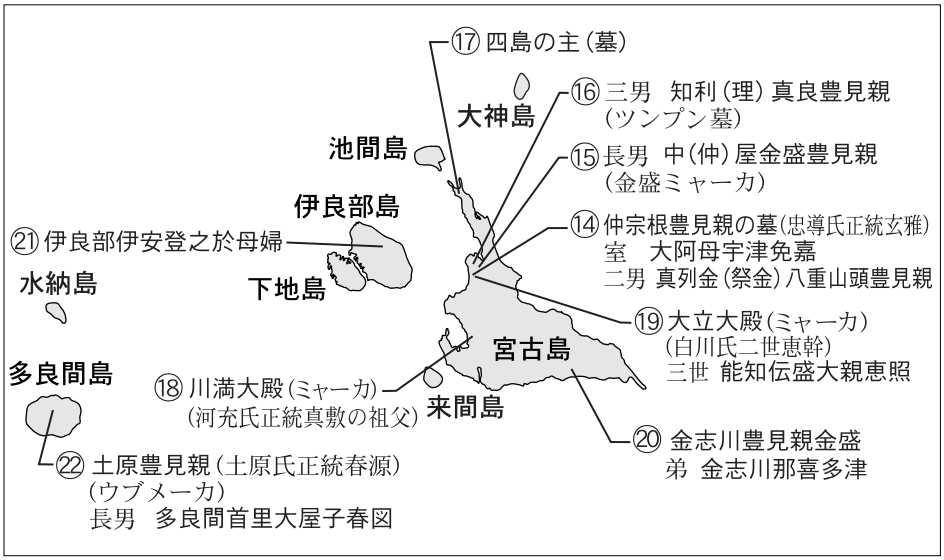
一、八重山蔵元時代の史料旧記

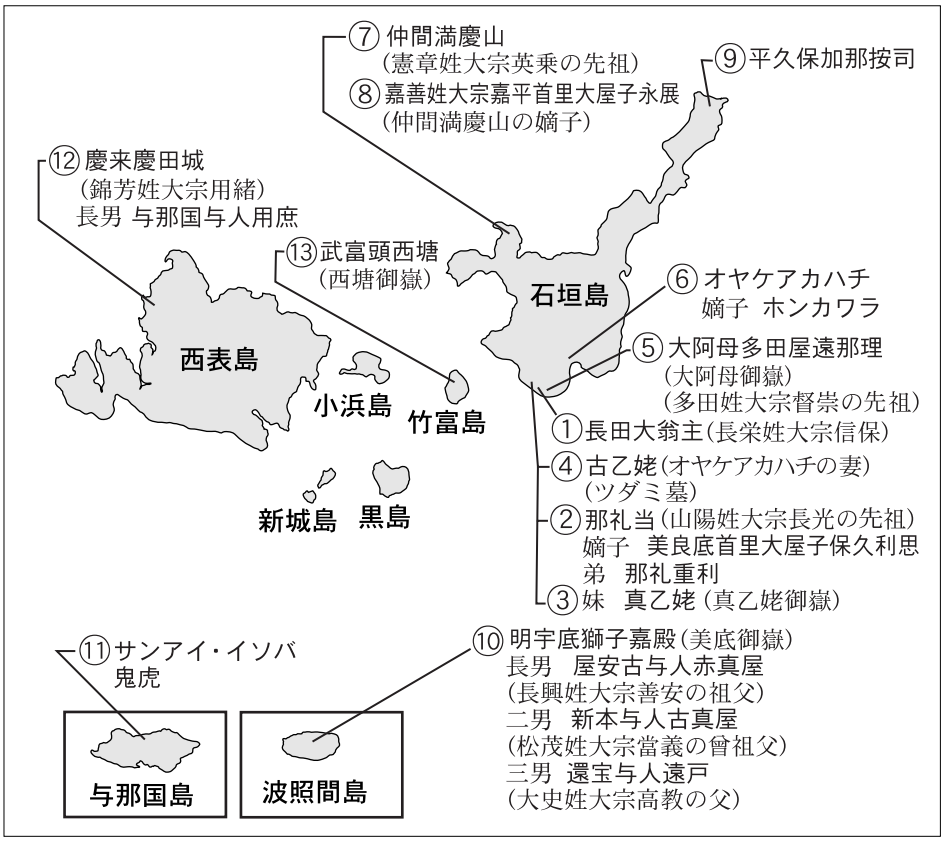
八重山蔵元時代の「オヤケアカハチ・ホンカワラの乱」に関わったと思われる人物や断片的に記載された史料旧記は左記の通りである。

「百浦添欄干之銘」（一五〇九年）、『おもろさうし』（一五三一～一六二三年）、『中山世譜（蔡鐸本）』（一六九七～一七〇一年）、「君南風由来并位階且公事」（一六九七～一七〇六年）、『八重山島諸記帳』（一七〇五年）、『八重山島大阿母由来記』（一七〇五年）、『八重山嶋由来記』（一七〇五年）、『宮古島旧記』（一七〇五～九五年）、『女官御双紙』（一七〇六～一三年）、『琉球国由来記』（一七一三年）、『中山世譜（蔡温本）』（一七二四～二五年）、『雍正旧記』（一七二七年）、『琉球国旧記』（一七三一年）、『球陽』（一七四三～一八七六年）、『遺老説傳』（一七四五年）、『宮古島在番記』（一七八〇年）、『八重山島年来記』、『慶来慶田城由来記』（一七二五～四五年）、憲章姓一門会からの『口上覚（請願書）』（一八〇九年）。

家譜では那覇の『銭姓家譜正統』、宮古の『忠導氏系図家譜正統』（一七五七年）、『河充氏系図家譜正統』、『根馬氏家譜系図正統』、『白川氏系図家譜正統』、多良間島の『土原氏系図家譜正統』や、八重山の『長栄姓系図家譜大宗』（一七三三年）、『山陽姓系図家譜大宗』、『憲章姓系図家譜大宗』、『嘉善姓系図家譜大宗』、『錦芳姓系図家譜大宗』、『長栄氏五世信本家譜』等の諸史料がある。

オヤケアカハチ・ホンカワラと同一世代前後の英傑たちの所在地とその墓





二、オヤケアカハチ・ホンカワラと同一世代前後の人物

これらの史料の中に記載された一五〇〇年「オヤケアカハチ・ホンカワラの乱」、一五二二年与那国島の「鬼虎の乱」に関わった同世代前後の人物は次の通りである。

尚真王（一四六五～一五二六年）。

大里親雲上。

銭原・安波根里主・阿波根真五郎・銭姓安波根直張（一四七八～一五四三年）。

久米島の君南風（チンペエ・久米島の最高級神女）。

1．石垣島

長田堂村の①長田大翁主（ナータウフーシュ・長田〔多〕大父・長田大主・名田大知。石垣島の南海岸の長田堂村を統治した）＝長栄姓大宗古見大首里大屋子（古見頭の後、石垣八重山頭）信保、長男の長栄氏二世大城与人信休。

美良底村の②那礼当（ナレイトウ・那礼塘＝那礼堂・山陽姓大宗長光の先祖。石垣島の南海岸の美良底村を統治した）、嫡子の美良底首里大屋子保久利思（山陽姓大宗宮良親雲上長光曽祖父）、弟の那礼重利（ナレカサナリ・那礼嘉佐成）、妹の永良比金③真乙姥（マイツバア・真市・真市姥）、④古乙姥（クイツバア・古市。オヤケアカハチの妻）。

平得村の⑤大阿母多田屋遠那理（宇那利・オナリ。一五〇二年、八重山の初代大阿母。多田姓大宗督崇の先祖）。

大浜村の⑥オヤケアカハチ（石垣島の東南海岸を根城にしながら、八重山を統治しようとしていた）、オヤケアカハチの嫡子のホンカワラ。

平得村の嵩茶（タケチャ。アカハチの部下）。

大浜村の黒勢（コルセ。アカハチの部下）。

川平・仲間村の⑦仲間満慶山（ナカマミツケヤマ・石垣島の北海岸の川平村一帯を統治した）、長子・嘉平首里大屋子佐加伊（憲章姓大宗石垣親雲上英乗の祖父）、⑧嘉善姓大宗嘉平首里大屋子永展（仲間満慶山の嫡子）。平久保村の⑨平久保加那按司（ヒラクボカナアジ・石垣島の北部一帯を統治した）。

2. 波照間島

⑩明宇底獅子嘉殿（ミウスクシシカドゥン・シシカトノ・メウ底シジカドノ・獅子嘉。波照間島を統治した）、長男の屋安古与人赤真屋（アカマヤ・長興姓大宗古見首里大屋子善安の祖父）、二男の新本与人古真屋（コマヤ・松茂姓大宗新本与人當義の曽祖父）、三男の還宝与人遠戸（トウ・大史姓大宗古見与人高教の父）、長女の嘉真太（カマタ）、二女の保古（ホコ）、三女の屋古也（ヤコヤ）。

3. 与那国島

女酋長⑪サンアイ・イソバ（与那国島を統治した）。

鬼虎（オニトラ。女酋長サンアイ・イソバの後に与那国島を統治した）。

4. 西表島

慶田城村（現・祖納）の⑫慶来慶田城（ケライケダグスク）＝錦芳姓大宗西表首里大屋子用緒、長男の錦芳氏二世与那国与人用庶。

5. 竹富島

⑬武富大首里大屋子西塘（ニシトウ。武富頭。一五二四年、竹富島ウラカイジに八重山蔵元を創設）。

6. 宮古島

⑭仲宗根豊見親（ナカソネトゥユミヤ。宮古を統一した）＝忠導氏正統宮古頭玄雅、室の大阿母宇津免嘉（宇津免娥・

於津美嘉。一五〇三年、宮古の初代大阿母）。

長男の⑮中（仲）屋金盛豊見親（ナカヤカニムリトゥユミヤ。宮古頭。忠導氏二世玄武）、二男の真列金（祭金）八重山頭豊見親＝忠導氏二世玄数、三男の⑯知利（理）真良豊見親（チリマラトゥユミヤ。八重山頭。宮金氏正統寛忠）、四男の忠導氏二世平良親雲上玄屯。

根馬氏正統川平首里大屋子定基。

安嘉宇立親（仲宗根豊見親の妻・大阿母宇津免娥の父。野崎村の有力者）。

⑰四島の主（ユスマヌシュ。狩俣、島尻、大神、池間の四村を統治した。「八重山の主（ヤエマヌシュ）」または「古見の主（クンヌシュ）」ともいう）。

⑱川満大殿（カワミツウブトゥヌ。河充氏正統友利首里大屋子真敷の祖父。下地一帯を統治した）。

白川氏二世⑲大立大殿恵幹。白川氏三世能知伝盛大親恵照。

⑳金志川豊見親金盛（城辺一帯を統治した）、弟の金志川那喜多津（那喜太智）。

平良祝住屋大阿智城。砂川巫女（神司アフガマ＝砂川阿珹娥摩・妹の神司コイガマ＝祝砂川恋種司）。

7. 伊良部島

㉑伊良部伊安登之於母婦。

8. 多良間島

㉒土原豊見親＝土原氏正統多良間島主春源（多良間島主。多良間島を統治した）、長男の土原氏二世多良間首里大屋子春図。

中国南部と大密貿易を行った八重山の歴史の中で、一番華やかな時代をスク時代（十二世紀後半から十六世紀。沖縄ではグスク時代）と呼び、このスク時代の最盛期の階級社会萌芽期に登場する人物たちである。

三、八重山のスク時代の年表

時代	年代	経済	事項
先史時代	七一四年	漁撈	◎南島の島々の奄美・球美（久米島）・信覚（石垣島）など大和朝廷に入貢。
無土器時代	九～十世紀頃	漁撈	◎無土器時代の貝塚から貨銭「開元通寶」（唐の高祖の武徳四年〈六二一〉から、唐代末まで中国各地で鋳造され、広く東アジア一帯に宋・元・明時代まで通用）が発見されている。 西表島の仲間第一貝塚四枚採集・石垣島の崎枝赤崎貝塚群三十三枚出土。 石垣島の嘉良嶽貝塚群一枚採集・石垣島の吹通川口貝塚一枚採集。
第二期	一〇一〇年（AD）	漁撈	※九～十世紀頃から、中国海商らによって「絹」に加えて、「中国製の貿易陶磁器」などが貿易商品として東南アジア諸国へ輸出される。 ◎西表島の船浦貝塚（無土器時代の貝塚）、II層一〇一〇年AD。
第二期	十一世紀～十三世紀頃	猟	※十一世紀から十三世紀頃、徳之島の伊仙町伊仙のヤナギダ窯やカムィヤキ窯で南島の島々向けに、「類須恵器」が多量に生産される。
第二期	十二世紀頃	狩	◎波照間島の大泊浜貝塚（無土器時代終末期の貝塚） 第四層から滑石製石鍋（長崎県の西彼杵半島）・類須恵器（徳之島のカムィヤキ系陶器）・中国製の白磁玉縁碗・褐釉陶器（南蛮甕＝スビガメ）・鉄鑿などが出土した。
前期	一一八五年		※壇ノ浦の戦い後、平家の落ち武士が、南島の島々に渡来する。
前期	十三世紀～十五世紀頃	漁撈・	※中国海商らが十三世紀中葉から十四～五世紀にかけて、「香料（スパイス）」や「宝貝（タカラガイ＝スビガイ）」などを求めて、東南アジアの諸国へ渡来する。 ※九州の武士や町人らが、宝物である中国製の貿易陶磁器を求めて鉄器の製作技術や類須恵器・勾玉・丸玉などを携え、南島の島々や八重山の島々に渡来し、積極的に南島経営に乗り出す。 ◎八重山の海岸寄りの砂丘上に住んでいた無土器の先住人は、外来文化と接触した際、離散、または逃避して、内陸部の石灰岩の岩陰や洞窟（アブ）などに住み、消極的な交易を行う。（石垣島の石底山遺跡・平得ペーギナー遺跡・宮良ヤドゥムレー遺跡） ◎石垣島の山原貝塚　六〇〇±一〇〇BP。
前期	一三六八年		※漢民族の国家「明」が起こり、招撫政策に応ずる諸国間の個別冊封による朝貢貿易（公貿易）が行われる。民間貿易（私貿易）は、すべて禁止する。

歴史時代区分	琉球王国時代区分	年代	生業	事項
原史時代	スク時代 後期	一三七二年	農業・密貿易・狩猟	※沖縄島の中山察度、はじめて「明」に進貢する。
原史時代	スク時代 後期	一三九〇年	農業・密貿易・狩猟	◎宮古、八重山、はじめて沖縄島の中山に入貢する。
原史時代	スク時代 後期	十四世紀～十五世紀頃	農業・密貿易・狩猟	◎船が往来・停船できる海岸（リーフの口のあるところ）寄りに定住する。遠見台（見晴らし台）を作り、積極的に中国海商らを迎える密貿易体制を整える。（石垣島の元平久保村遺跡、元桴海村遺跡）
原史時代	スク時代 後期	一四〇四年	農業・密貿易・狩猟	※明の冊封使、はじめて沖縄島の中山に渡来する。 ※日本では、足利義満による明との勘合貿易がはじまる。
原史時代	スク時代 後期	一四二九年	農業・密貿易・狩猟	※尚巴志が山南王を滅ぼし、三山（沖縄島）を統一する。
原史時代	スク時代 後期	十五世紀～十六世紀頃	農業・密貿易・狩猟	◎八重山においては、十五世紀から十六世紀にかけて、中国海商らと自由奔放に密貿易（私貿易）が行われ、厖大な中国製の青磁、南蛮陶器（褐釉陶器）などがもたらされた。（名蔵シタダル海底遺跡）
原史時代	スク時代 後期	一四三六年	農業・密貿易・狩猟	※沖縄では、南方貿易が盛んになる。
原史時代	スク時代 後期	一四五二年	農業・密貿易・狩猟	※海禁政策違反で、琉球に赴き密貿易を行っていた中国海商らのジャンク船が中国沿岸で捕獲される。
原史時代	スク時代 後期	一四七一年	農業・密貿易・狩猟	※室町幕府、薩摩の島津氏に琉球渡航船の取り締まりを命ず。
原史時代	スク時代 後期	一四七七年	農業・密貿易・狩猟	◎朝鮮人三人、与那国島に漂着する。（与那国島の与那原遺跡）
原史時代	スク時代 後期	十五世紀～十六世紀頃	農業・密貿易・狩猟	◎琉球王国は、十五世紀後半から十六世紀前半に八重山において、密貿易（私貿易）の取り締まりを強化していく。
原史時代	スク時代 後期	十六世紀頃	農業・密貿易・狩猟	◎八重山においては、密貿易の取り締まりの結果、スク時代の遺跡が、忽然と消えていく。（石垣島の中マンゲー遺跡）
歴史時代	琉球王国時代	一五〇〇年	農業・密貿易	◎八重山の歴史的な事件「オヤケアカハチ・ホンカワラの乱」が起こる。（新川ビロースク遺跡）
歴史時代	琉球王国時代	一五〇八年	農業・密貿易	※薩摩の島津氏、琉球王国に薩摩船の密貿易の取り締まりを要請する。
歴史時代	琉球王国時代	一五二四年	農業・密貿易	◎西塘が八重山蔵元（政庁）を創設する。

注　※は沖縄本島及び周辺地域の歴史的事件とその年代（推定）を示す。
◎は、八重山関連の歴史的事件及びその推定年代を示す。
『八重山の考古学』（一九九九年／先島文化研究所）より

四、オヤケアカハチ・ホンカワラと同一世代前後の人物が居住した場所（貝塚・遺跡・墓）

現在、沖縄のグスク時代の遺跡から数多く発見される武器や武具などが宮古・八重山のスク時代の遺跡からあまり発見されていない。また、沖縄で広く見られる城郭などもない。ただ、スク時代の遺跡の立地場所（例えば石灰岩上）に限って屋敷の囲いの石垣がある。

また、彼らの居住した場所からも権力や富の象徴的な遺物（例えば中国の元様式の染付など）もなく、どのスク時代の遺跡からも画一的な生活用品（八重山では土鍋用の外耳土器、宮古は水運搬用の宮古式土器など）や数多くの中国製の白磁、青磁、染付（青花）、褐釉陶器などの貿易陶磁器が出土する。

現在のところ宮古・八重山における彼らの居住した場所（貝塚や遺跡）や墓を上げると次の通りである（丸数字は28ページ「オヤケアカハチ・ホンカワラと同一世代前後の英傑たちの所在地とその墓」に対応）。

1. 貝塚・遺跡

① 石垣貝塚（長田堂村跡。無土器時代から現代）→長田大翁主（長栄姓大宗信保）

② ビロースク遺跡（美良底村跡。十二世紀～十六世紀頃）・川花第一遺跡・川花第二遺跡・川花第三遺跡（十四世紀～十六世紀頃）→那礼当（山陽姓大宗長光の先祖）、那礼重利、真乙姥（真市）、古乙姥（古市）

⑤ 崎原御嶽遺跡（十六世紀頃）→ヒルマクイ・幸地玉ガネ＝オヤケアカハチ・ホンカワラ

⑨ 元平久保村遺跡（十四世紀～十六世紀頃）→平久保加那按司

⑦ 川平貝塚（仲間村跡。十四世紀～十六世紀頃）→仲間満慶山（憲章姓大宗英乗の先祖・嘉善姓大宗永展の父）

⑩ 波照間島のオヤケアカハチ生誕地遺跡（十六世紀頃）→オヤケアカハチ

⑩　美底御嶽周辺遺跡（十六世紀頃）→明宇底獅子嘉殿
⑪　与那国島の島仲村遺跡→サンアイ・イソバ、鬼虎（与那原遺跡＝十四世紀～十六世紀頃）
⑫　内離島の成屋遺跡（十五世紀～十七世紀中葉頃）→慶来慶田城用緒の生誕地
⑫　西表島の慶来慶田城遺跡（十六世紀～十八世紀中葉頃）→慶来慶田城用緒の屋敷（錦芳姓大宗用緒）
⑫　西表島の慶田城村（上村）遺跡（十四世紀中葉～十八世紀中葉頃）→大竹祖納堂儀佐、慶来慶田城用緒が住み統治していた村
⑬　竹富島のカイジ浜貝塚（鍛冶御嶽？　無土器時代～十六世紀頃）→西塘
⑭　宮古島の住屋遺跡（十四世紀頃～現代）→仲宗根豊見親―忠導氏正統玄雅、長男の仲屋金盛豊見親（玄武）、二男の真列金（祭金）豊見親玄数、三男の知利真良豊見親（宮金氏正統寛忠）
㉒　多良間島の土原ウガン遺跡（十四世紀～十八世紀頃）→土原豊見親（土原氏正統春源）

2．調査・報告書

八重山におけるこれらの遺跡・貝塚等において発掘調査されたり、また報告されたのは次の通りである（丸数字は28ページ「オヤケアカハチ・ホンカワラと同一世代前後の英傑たちの所在地とその墓」に対応）。

①　石垣貝塚（長田堂村跡）→一九九三年、石垣市教育委員会『石垣貝塚―県道真栄里新川線街路改修工事に伴う緊急発掘調査報告書』石垣市文化財調査報告書　第一七号
平川貝塚→一九九三年、石垣市教育委員会『平川貝塚―県道真栄里新川線街路改修工事に伴う緊急発掘調査報告書』

石垣市文化財調査報告書　第一八号

②　ビロースク遺跡（美良底村跡）→一九八三年、石垣市教育委員会『ビロースク遺跡―沖縄県石垣市新川・ビロースク遺跡発掘調査報告書』石垣市文化財調査報告書　第六号

②　川花第一遺跡→二〇〇三年八月十三日～同年九月二十六日まで、石垣市教育委員会によって発掘調査が行われた。

②　川花第三遺跡（四カ村の西端の遺跡）→一九〇五（明治三十八）年、鳥居龍蔵「八重山の石器時代の住民に就て」。『太陽』第十一巻　第五號。一九二五（大正十四）年、鳥居龍蔵「八重山の遺跡に就て」『有史以前の日本』磯部甲陽堂

②　川花第三遺跡→一九九一年八月一日～同年八月三十一日、石垣市教育委員会によって発掘調査が行われた（未報告）。

②　喜田盛遺跡（慶田盛村跡）→二〇〇四年、石垣市教育委員会『喜田盛遺跡―県道真栄里新川線街路改修工事に伴う緊急発掘調査報告書』石垣市文化財調査報告書　第二八号

⑦　川平貝塚（川平村獅子森貝塚）→一九〇五（明治三十八）年、鳥居龍蔵「八重山の石器時代の住民に就て」。『太陽』第十一巻　第五號。一九二五（大正十四）年、鳥居龍蔵「八重山の遺跡に就て」『有史以前の日本』磯部甲陽堂

⑪　与那国島の与那原遺跡→一九八八年、沖縄県与那国町教育委員会『与那原遺跡―個人農家の畑地改良工事に伴う緊急発掘調査報告』与那国町文化財調査報告書　第二集。―青山学院大学与那原遺跡調査団（代表・田村晃一）によって、第一次調査―一九八三年二月十五日～同年三月十日、第二次調査―一九八四年三月九日～同年四月一日、第三次調査―一九八五年三月四日～同年三月二十六日に学術的な発掘調査が行われた（未報告）。

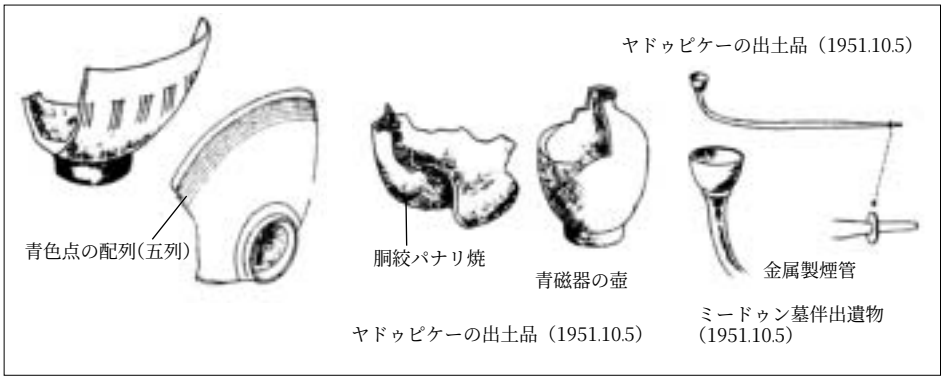
⑫　内離島の成屋遺跡→一九八七年、青山学院大学成屋遺跡調査団（代表三上次男・田村晃一）『沖縄県八重山郡竹富町西表・成屋遺跡発掘調査概報』

⑫西表島の慶来慶田城遺跡→一九九七年、沖縄県教育委員会『西表島・慶来慶田城遺跡　重要遺跡確認調査』沖縄県文化財調査報告書　第一三一集

⑫西表島の慶田城村遺跡（上村遺跡）→一九九一年、沖縄県教育委員会『西表島―上村遺跡―重要遺跡確認調査報告』沖縄県文化財調査報告書　第九八集

⑬竹富島のカイジ浜貝塚（鍛冶御嶽）→一九九四年、沖縄県教育委員会『竹富町カイジ浜貝塚―竹富島一周道路建設工事に伴う緊急発掘調査報告』沖縄県文化財調査報告書　第一一五集

与那原遺跡出土の火を受けた柱片
（与那国町教育委員会『与那原遺跡』1988年より）



憲章姓一門會（編集人喜友名英文）『英傑仲間満慶山―仲間満慶山四百五十年祭記念出版―』（1951年10月7日）より

これらの報告書から遺跡の年代は、一五〇〇年「オヤケアカハチ・ホンカワラの乱」に関わった同世代の人物らに符合している。

考古学の先駆者・鳥居龍蔵博士が百年前の一九〇四年沖縄県に初めて来島し、川平村獅子森貝塚（川平貝塚）、四カ村の西端の遺跡（川花第三遺跡）を発掘調査している。

また、沖縄本島のグスクの同時代の遺跡から普遍的に見られる城郭や武器・武具類などの出土がこれら報告書に一切記載されていない。筆者もこれまでスク時代の数多くの遺跡を踏査したが、城郭や武器・武具類等を確認していない。

与那国島の『与那原遺跡報告書』には「ピット1で検出された柱片は火を受け」ていたと報告され、宮古島の仲宗根豊見親玄雅ら親子がオヤケアカハチ・ホンカワラの征討の途次、仲屋金盛らを与那国島へ出兵させ、サンアイ・イソバ（女酋長）によって撃退されているが、その時、「ドナンバラ村は仲屋金盛らによって襲撃され、村は焼き払われ、按司が殺された」。その「伝承の時期的にも一応、矛盾しないようである」とも述べている。（37ページ写真参照）

3. 墓

（丸数字は28ページ「オヤケアカハチ・ホンカワラと同一世代前後の英傑たちの所在地とその墓」に対応）。

① 長田大翁主（長栄姓大宗信保）→長田大翁主の拝み墓

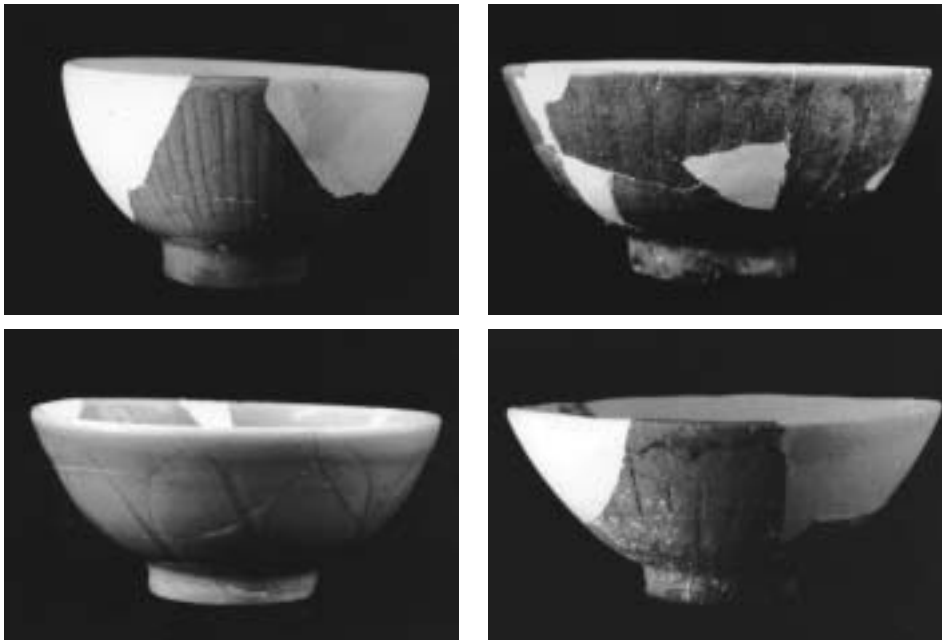
③ 真乙姥（山陽姓大宗長光の先祖・那礼当の妹）→真乙姥御嶽（マイツバーオン）

④ 古乙姥（山陽姓大宗長光の先祖・那礼当や真乙姥の妹）→ツダミ墓（かたつむり墓）

⑤ 多田屋遠那理（多田姓大宗督崇の先祖）→大阿母御嶽（ホールザーウガン）

⑦ 仲間満慶山（憲章姓大宗英乗の先祖）→ヤドゥピケー・ミードゥン墓

石垣貝塚（長田堂村跡）から出土した中国製の青磁の碗（細刻蓮弁文）



（石垣市教育委員会『石垣貝塚』／石垣市文化財調査報告書第17号、1993年より）

古乙姥（クイツバア）の墓［昭和9年〈1934〉頃。字新川、マイツバーオン（真乙姥御嶽）内］
写真提供：早稲田大学建築史研究室

⑧ 嘉善姓大宗永展→嘉善墓（カジンバカ）

⑩ 明宇底獅子嘉殿（長興姓大宗善安や松茂姓大宗當義・大史姓大宗高教らの先祖）→美底御嶽（ミスクワー）

⑫ 慶来慶田城（錦芳姓大宗用緒）→用緒翁之墓

⑬ 竹富島の西塘→西塘御嶽（ニシトウオン）

⑭ 仲宗根豊見親（忠導氏正統玄雅）→仲宗根豊見親の墓（トゥユミヤ墓）

⑮ 中（仲）屋金盛豊見親（忠導氏二世玄武）→金盛ミャーカ

⑯ 知利（理）真良豊見親（宮金氏正統寛忠）→知利真良豊見親の墓（ツンプン墓）

⑰ 四島の主→四島の主の墓

⑱ 川満大殿→川満大殿ミャーカ

⑲ 大立大殿（白川氏二世大立大殿恵幹）→大立大殿ミャーカ

㉒ 土原豊見親（土原氏正統春源）→土原豊見親のミャーカ（ウブメーカ）

現在、八重山の嘉善墓、長田大翁主の拝み墓、用緒翁之墓などのほとんどが位牌墓、坊主墓と呼ばれる本土でよく見られる塔形の墓である。改築される以前の墓は、石棺の周りに石灰岩、粟石、砂岩の巨石を長方形に積み上げたいわゆる巨石墓で、宮古諸島や西表島の古見一帯に分布するミャーカと呼ばれる古い墓であったという。このような墓を石墓（イシバカ）などと呼ばれている。ヤドゥピケー・ミードゥン墓のように石灰岩の岩陰を利用した横穴の墓、美底御嶽、真乙姥御嶽、大阿母御嶽、西塘御嶽などのようなアジ墓、神御墓（かみおはか）が御嶽に格上げされて地域の人々に信仰されている墓などがある。

長田大翁主生誕の地（波照間島）

ビロースク遺跡

オヤケアカハチ生誕の地（波照間島）

川花第一遺跡

崎原御嶽

川花第二遺跡

武富大首里大屋子西塘の墓（西塘御嶽）

川花第三遺跡

真乙姥の墓（真乙姥御嶽）

美崎御嶽

多田屋遠那理の墓（大阿母御嶽）

長田大翁主の拝み墓

仲間満慶山の墓

長田御嶽

嘉善姓太宗永展の墓

慶来慶田城用緒の墓

川満大殿の墓

仲宗根豊見親の墓

大立大殿の墓

知利真良豊見親の墓

土原豊見親の墓

中(仲)屋金盛豊見親の墓

四島の主の墓
(平良市教育委員会『平良市の文化財』1994より)

四島の主の屋敷跡

写真提供：宮古郷土史研究会(仲宗根將二会長)